

横浜三塔物語

横浜開港 150 周年 UniverCity Yokohama

O. O

□横浜大学リレー講座

折りしも2009年は横浜開港150周年に当たり、横浜の住人になってから2箇所住処を替えたが丁度30年になる。これからも人生の終焉まで厄介になる街になりそうなので、少し時間・空間的にこの港町を探ってみようと思った。横浜市の図書館や市大の情報に触れているうちに、この講座に出会った。UniverCity Yokohamaの横文字に象徴するがごとく横浜市内に約30の大学・大学院・短大があり、そのうち19の大学と横浜市が連携してそれぞれの大学の特色・得意分野を生かした生涯学習講座が、年間4コース全20回中央図書館を会場にて開催された。いろいろと興味ある講座の中で、温故知新「横濱」を振り返るコースの一つ、横国大大学院吉田鋼市教授の「横濱三塔」を主として～横浜の都市と近代都市～であった横濱三塔物語（かのイギリス作家ディケンズの長編歴史小説「二都物語」（仏革命を背景にロンドン、パリを舞台）」をもじった）に纏わる話を紹介したい。

神奈川県庁舎、横浜関税と開港記念館のそれぞれの持つ塔は横浜港のシンボルとして親しまれ、昔は他に目立つものが無く入港して来る船舶のランドマークとなっていた。キング・クイーン・ジャックは入港する外国船員達がトランプカードに例えて名づけたと言われている各愛称の持つ横浜塔として昔から名高いが、近頃「横浜三塔物語」という言葉が聞かれるようになった。“三塔を同時に見られるスポット3箇所を全部廻ると願い事がかなうと言う「物語」が付加されたようである。ローマのトレヴィの泉は肩越しにコイン1枚投げれば再来、2枚投げると恋愛成就、更に3枚投げると離婚可能と言うブラックヒューモアも加えられたような都市伝説の一種”（吉田教授引用）に仲間入りした。この横浜三塔物語には、「外国の船乗りが、横浜三塔に航海の安全を願掛け

した」、もう1つは「三塔が震災などの試練を乗り越えてきたことから、カップルが困難を乗り越えて結ばれる」という言い伝えがあるようだ。



・ 横浜赤レンガ倉庫の岸壁から眺めた横浜三塔

□主役の三塔を紹介すると；

◆キングの塔：神奈川県本庁舎塔屋 国登録文化財。
昭和3年10月竣工、着工は昭和2年1月。
設計は小尾嘉郎（1892 - 1972）のコンペ当選案を基に神奈川県庁舎建築事務所が設計（実施設計中心渡辺利雄、池辺宗薫）。
施工は大林組、鉄骨鉄筋コンクリート造5階建て。
地下1階、塔屋は9階分あり、高さ48m。
建築面積3,070,087㎡、延床面積18,291.727㎡。
建築工事費275万円。
様式については「日本趣味を基調とした近世式」、塔屋はアール・デコ、帝冠様式の先駆け建築。「貴賓室、正庁、議場、会議室、その他の設備と装飾とは日本風を基調とし其の模様等も古代の建築に範を採り近代用材の変化に伴い適当に工夫してアジアの趣向に順応せしめ・・・」とある。
コンペの要項の「設計者心得」に、「応募設計図案ハ船舶出入ノ際港外ヨリノ遠望ヲ考慮シ成ル可ク県庁舎ノ所在ヲ容易ニ認識シウ得ル意匠タルコトを望ム」とある。
小尾嘉郎自身の設計要旨には、枢要なる一県の統ふる庁舎として尚且対外関係上我国の表玄関として求められたル本庁舎設計にありては穩健質実且つ厳然として冒し難き我国風を表現するに足るべく然もその間一抹の情味漂ひ遠き外来者をして第一好印象を与ふべき外觀たらざるべからず」とある。（吉田教授引用）



・県庁正面から撮影

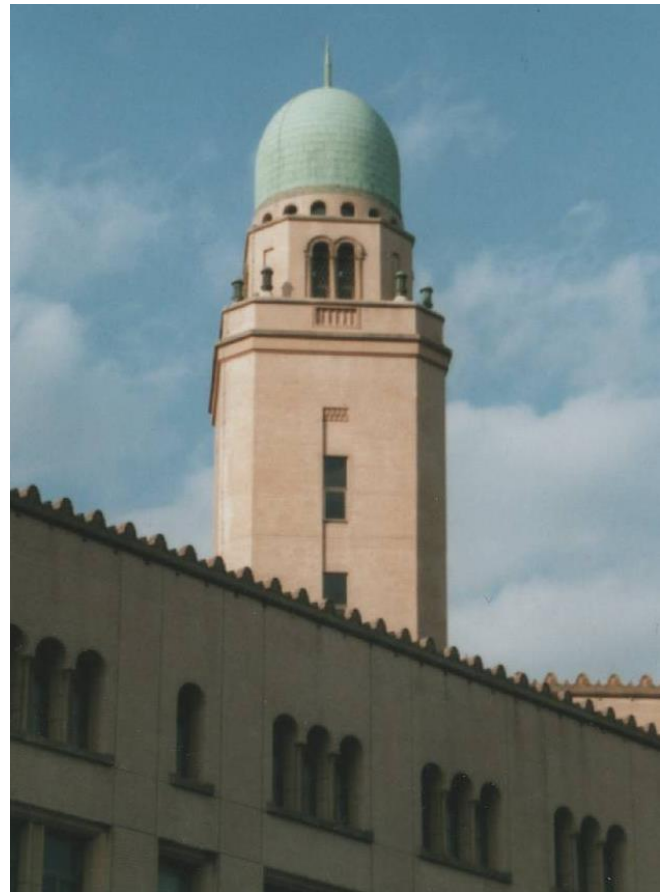


・ 6階庁舎の歴史がわかるパネルと模型が展示

♥クイーンンの塔: 横浜税関本関庁舎塔屋、横浜市認定歴史的建造物。

昭和9年9月竣工。着工は昭和7年9月。
 設計は大蔵省営繕管財局工務部工務課第二製図掛り吉武東里氏中心にまとめた。
 施工は戸田組。鉄骨鉄筋コンクリート造5階建て。
 塔屋は10階分に相当し、高さは51.46m。
 建築面積3,970.726㎡、延床面積12,183.674㎡。
 建築工事費は150万円。
 様式は「近世式」、優美な姿をしていて、ロマネスク様式を取り入れた緑青色のドームが印象的な建築物。塔屋ドームはイスラム風。竣工を伝える当時の新聞には

「東洋一の関税」「日本の大玄関」横浜発達史を物語り聳え立つ港の摩天楼」「デパートのやうな華麗な感じとても明るいお役所」「港都に聳ゆ摩天楼」等とある。当初の設計案では県庁よりも低かった塔屋を税関長金子隆三の一声で県庁より3m弱高くしたと言い伝えがある。



・県庁前交差点から撮影



・クイーンン広場入り口 スラミックアーチの構え

♣ジャックの塔: 横浜市開港記念会館、国指定重要文化財。
 大正6年6月竣工、着工は大正3年9月。
 設計は福田重義(1887-1971)コンペ当選案を基に山田七五郎率いる横浜市営繕組織が実施設計を担当。
 施工は清水組。レンガ造(一部鉄筋コンクリート造)2階

建て、地下1階。塔の高さ34, 57m。

建築面積1, 536.93 m²、延床面積4, 425.97 m²。

建築工事費36万9千円。



・地方裁判所交差点より撮影



・2階ホールステンドグラス

様式「最近復興式」、現在は「辰野式」「フリールネッサンス」「フリースタイル」などと言われ、福田案の評は「外観最善く本建築の性質を表現す」とある。

関東大震災では外壁を残して屋根と内部が焼失したが、昭和2年に復旧、内部はこの震災復興期のもの。昭和2年に一部が修復されたが、銅製の屋根やドームの部分のない簡素化されたものだった。昭和の間はドームがないままだったが、平成元年(市政100周年、開港130年)、ドーム部分が復元されて、竣工当時の姿に復元された。

◆三塔が見えるビュースポット

横浜三塔物語を達成するべく、キング・クイーン・ジャックが同時に見える場所をめぐりは以下の通りです。アンティエイジングのために、三塔めぐりを楽しんだら如何でしょうか。

ビュースポットその1



- ・ 神奈川県庁分庁舎」という立て看板のすぐ前にある
横浜三塔のプレート

ビュースポットその2



- ・大さん橋の屋上フロアに描かれた横浜三塔のマーク

ビュースポットその3



- ・横浜赤レンガ倉庫1号館近くにある横浜三塔物語プレート